

I 診療実績

1. 内科

副院長・血液内科部長 瀬口 雅人

疾病・術式・検査名 (2022)

透析センター

新規血液透析導入患者数	45名
糖尿病性腎症	30名
急性血液浄化療法施行	
持続血液濾過 (CHF)	1回
持続血液透析 (CHD)	0回
持続血液濾過透析 (CHDF)	57回
血液透析 (HD)	22,199回
転入血液透析患者数	12名
転出血液透析患者数	12名
腎移植施行血液透析患者数	0名
内シャント関連手術件数	83件
内シャント P T A (経皮的血管拡張術)	144件

循環器内科領域

(件)

心臓MRI	125
冠動脈CT	187
冠動脈MRA	151
心臓カテーテル検査	301
経皮的冠動脈形成術	179
経皮的末梢動脈形成術	0
恒久的ペースメーカー植込術	30
ジェネレーター交換	5
急性心筋梗塞	115

消化器内科領域

(件)

C型肝炎-肝硬変に対する経口ウイルス治療薬投与	1
B型肝炎-肝硬変に対する経口ウイルス治療薬投与	29
肝臓に対する肝動脈塞栓術 (動注化学療法を含む)	0
消化器癌 (肝臓以外) 化学療法	29

疾病・術式・検査名 (2022)

血液内科領域（新規入院患者のみ 重複は除く）	(件)
悪性リンパ腫	83
骨髄異形成症候群	33
多発性骨髄腫	22
急性骨髄性白血病	38
急性リンパ性白血病	3
自己免疫性溶血性貧血	1
特発性血小板減少性紫斑病	3
慢性骨髄性白血病	11
その他骨髄増殖性腫瘍	0
血栓性血小板減少性紫斑病	1
発作性夜間血色素尿症	0
原発性マクログロブリン血症	4
その他血液疾患	54

リウマチ・膠原病内科領域	(件)
通院患者数	724
初診患者数	219
疾患別	
関節リウマチ	307
結晶誘発性関節炎（痛風、CPPD関節炎）	49
骨粗鬆症	45
シェーグレン症候群	38
全身性強皮症	31
全身性エリテマトーデス	29
脊椎関節炎（乾癬性関節炎、強直性脊椎炎、掌蹠膿疱症性関節炎など）	26
リウマチ性多発筋痛症	25
慢性疲労症候群、線維筋痛症	21
血管炎（ANCA関連血管炎、巨細胞性動脈炎など）	14
自己抗体陽性	26
その他関節障害	65
その他	48
関節エコー検査件数	105

脳神経内科では、2021年4月から常勤医1名を確保し、2022年度は常勤医1名、非常勤医3名で診療を行っています。救急医療としての脳卒中、てんかん、高齢化している地域の特性を反映した認知症、パーキンソン症候群などの Common disease を中心に診療を行い、徐々に外来患者数、入院患者数を増やしているところです。また、神経免疫性疾患、神経・筋疾患、神経感染症なども徐々に集積しつつあります。

さらに、初期研修医に加え、2023年度から始まる内科専攻医プログラムに備え、牛久発の専門医を育てるため、教育にも注力しているところです。

疾病・術式・検査名 (2022)

脳神経内科領域	(件)
1 診療患者数	外来／入院
1) 脳血管障害	
(1) 脳卒中	
① 脳梗塞	33/34
② 脳出血	4/27
③ くも膜下出血	1/0
④ 動静脈奇形	2/0
(2) 一過性脳虚血発作	5/10
(3) その他	-
2) 神経変性疾患	
(1) パーキンソン症候群	
① パーキンソン病	58/13
② 多系統萎縮症	1/2
③ 進行性核上性麻痺	1/0
④ 大脳皮質基底核変性症	2/0
⑤ 脊髄小脳変性症	2/0
⑥ 血管性パーキンソニズム	0
⑦ 薬剤性パーキンソニズム	0
(2) 認知症	
① アルツハイマー型認知症/アルツハイマー病	100/35
② レビー小体型認知症	8/2
③ 血管性認知症	2/1
④ 前頭側頭型認知症	0
⑤ 水頭症	4/4
⑥ その他の認知症	4 5/ 3
(3) 運動ニューロン疾患	
① 筋萎縮性側索硬化症	3/2
② 球脊髄性筋萎縮症	1/0
3) 腫瘍	3 5/ 4
4) 先天奇形	0
5) 頭部外傷	
(1) 急性硬膜外血腫	1/0
(2) 急性硬膜下血腫	0
(3) 慢性硬膜下血腫	5/1
(4) 頭蓋骨骨折	0

	(件)
(5) 脳挫傷	1/2
(6) 脳震盪	1/0
(7) その他	-
6) 脱髄疾患	
(1) 中枢神経系	
① 多発性硬化症	6/5
② 視神経脊髄炎	5/2
③ 急性散在性脳脊髄炎	0
④ MOG抗体関連疾患	0
(2) 末梢神経	
① Guillain-Barré症候群	3/3
② Fisher症候群	0
③ 慢性炎症性脱髄性多発神経炎	0
④ 多巣性運動ニューロパチー	3/0
7) 代謝性疾患	0/2
8) 中毒性疾患	0
9) 末梢神経障害（脱髄以外）	
(1) 単神経炎	2/0
(2) 顔面神経麻痺	1/5
(3) 糖尿病性ニューロパチー	2/0
(4) その他	9/0
10) 感染症	
(1) Creutzfeldt-Jakob病	0
(2) AIDS	0
(3) 単純ヘルペス脳炎	1/4
(4) 髄膜炎	
① ウイルス性	0/1
② 細菌性	0
③ その他	1/2
(5) 梅毒	75/49
(6) 誤嚥性肺炎	4/20
(7) 尿路感染症	9/18
(8) 胆道系感染症	0
(9) COVID-19	28/125
(10) その他	7/28
11) 筋肉疾患	
(1) 筋ジストロフィー	
① 遠位型ミオパチー	0
② その他	0/1
(2) 筋強直症候群	
① 筋強直性ジストロフィー	1/1
(3) 周期性四肢麻痺	1/0
(4) 甲状腺疾患に関するミオパチー	0
(5) ミトコンドリア病	0
(6) 多発筋炎/皮膚筋炎	8/0
(7) リウマチ性多発筋痛症	2/0

	(件)
(8) 重症筋無力症	1/23
(9) その他	4/27
12) 機能的疾患	
(1) 頭痛	
① 片頭痛	31/0
② 緊張型頭痛	1/0
③ 群発頭痛	2/0
④ その他	1/19
(2) 神経痛	
① 後頭神経痛	1/0
② 三叉神経痛	8/0
③ 顔面神経痛	0
④ 肋間神経痛	0
⑤ その他	10/0
(3) 自律神経障害	
① 神経調節性失神	1/1
② その他	3/22
(4) てんかん	42/26
13) 全身疾患に伴う神経障害	
(1) 亜急性連合性脊髄変性症	0/1
(2) 橋中心髄鞘崩壊	0
(3) 悪性腫瘍に伴う神経障害	0
(4) サルコイドーシス	7/0
(5) 中毒に伴う神経障害	
① アルコール中毒	0/4
② 低酸素脳症	0
③ 肝性脳症	0/3
④ 尿毒症性脳症	0
⑤ CO2ナルコーシス	0
⑥ 薬物中毒	0
(6) 糖尿病に伴う神経障害	5/20
(7) 膠原病に伴う神経障害	4/91
(8) 血液疾患に伴う神経障害	169/0
(9) 悪性症候群	4 4/ 3
14) 精神疾患	4 4/ 6

2 検査件数	(件)
1) 画像	
(1) MRI	
① 頭部	136
② 脊椎	1
③ その他	42
(2) CT	
① 頭蓋内血管造影CT	12
② その他	195
2) 生理検査	(件)
(1) 電気生理検査	
① 伝導速度検査	39
② 針筋電図	4
③ 反復刺激試験	1
④ 脳波	80
3) 超音波検査	
(1) 頸部血管超音波	7
(2) 経食道心臓超音波	3
(3) 下肢静脈超音波	1
4) 腰椎穿刺	19

2. 総合外科・消化器外科

外科 部長 野口 岳春

2022年4月から2023年3月までの手術症例数は275例で腹腔鏡手術は117例行っています。2021年手術症例数が313例であり残念ながら全体の件数は減少しています。

2023年1月から外科常勤医師が2人となりましたが今まで同様の診療を可能なかぎり行っております。乳腺甲状腺疾患は23症例手術を施行しており非常勤医師の八代先生、堀内先生は変わらず勤務し応援して頂いています。

疾病・術式・検査 (2022年度)

		単位：件
胃、十二指腸		11
胃癌	幽門側胃切除	8
胃癌	胃全摘術	1
胃癌	腹腔鏡下胃空腸バイパス術	1
十二指腸潰瘍穿孔 穿孔部閉鎖大網被覆術		1
小腸		14
腸閉塞	腹腔鏡下イレウス解除術	5
腸閉塞	開腹イレウス解除術	7
腹腔内腫瘍	腹腔鏡補助下小腸部分切除	1
回腸人工肛門造設後 人工肛門閉鎖術		1
虫垂		29
急性虫垂炎	腹腔鏡下虫垂切除術	25
急性虫垂炎	開腹虫垂切除術	1
急性虫垂炎	回盲部切除	3
大腸		51
結腸癌	開腹結腸切除	10
結腸癌	腹腔鏡補助下結腸切除	19
結腸癌	腹腔鏡下人工肛門造設術	4
直腸癌	開腹直腸切除	1
直腸癌	腹腔鏡補助下直腸切除	3
直腸ポリープ	経肛門腫瘍切除	1
良性大腸穿孔	結腸切除術	6
結腸-膀胱瘻	結腸切除術	1
S状結腸軸捻転	結腸切除術	1
良性結腸穿通	腹腔鏡下人工肛門造設術	1
痔瘻	腹腔鏡下人工肛門造設術	1
糞便性イレウス	人工肛門造設	1
結腸人工肛門造設後 人工肛門閉鎖術		2
肝臓		5
肝腫瘍	肝区域切除	2
肝腫瘍	肝部分切除	2
肝嚢胞	腹腔鏡下肝嚢胞開窓術	1

疾病・術式・検査 (2022年度)

単位：件

胆嚢	58
胆嚢結石症（胆嚢炎） 腹腔鏡下胆嚢摘出術	54
胆嚢結石、総胆管結石 開腹胆嚢摘出＋総胆管切開採石術	4
ヘルニア	65
鼠経ヘルニア 前方アプローチによる根治術	49
鼠経ヘルニア 腹腔鏡による根治術	10
大腿ヘルニア 根治術	1
腹壁瘢痕ヘルニア 開腹根治術	4
閉鎖孔ヘルニア 根治術	1
肛門	2
痔核 結紮切除術	2
乳腺	12
乳癌 乳房切除	5
乳癌 乳腺部分切除	7
甲状腺	11
甲状腺腫瘍 全摘術	1
甲状腺腫瘍 右または左葉切除術	8
副甲状腺機能亢進症 摘出術	2
体表	16
リンパ節腫脹 リンパ節生検	9
皮下埋め込み型カテーテル挿入	5
転移性皮膚腫瘍 腫瘍切除	2
その他	3
気管切開	3
合 計	280

3. 整形外科

整形外科 顧問 梅原 新英
部長 谷口 裕人

※高齢者急性期医療（大腿骨近位部骨折・橈骨遠位端骨折）を中心に治療。
慢性疾患では関節外科（特に股関節・膝関節）治療に注力しています。

疾病・術式・検査 （2022年度）

外傷		単位：件
四肢・骨盤骨折	（大腿骨近位部骨折）骨折観血的手術（大腿）	60
四肢・骨盤骨折	（大腿骨近位部骨折）人工骨頭挿入術（股）	63
四肢・骨盤骨折	（橈骨遠位部骨折）骨折観血的手術（前腕）	38
四肢・骨盤骨折	（上記以外）骨折観血的手術、関節内骨折観血的手術	142
創外固定術		3
偽関節手術		1
関節脱臼	観血的整復術 非観血的整復術	9
腱断裂	（アキレス腱断裂含む）腱縫合術、腱移行術 その他	4
	小計	320
関節手術		
関節鏡下手術（膝関節）	半月板切除術・縫合術・靭帯形成術・滑膜切除	26
関節鏡下手術（膝関節）	腱板断裂修復術	10
足関節手術	関節固定・外反母趾手術・偏平足手術・滑膜切除	8
関節授動術（膝関節・肩関節）		4
変形性股関節症	人工股関節置換術・再置換術	42
リウマチ性股関節症	人工股関節置換術・再置換術	1
リウマチ性膝関節症	人工膝関節置換術、再置換術	4
変形性膝関節症	人工膝関節置換術・再置換術	29
変形性膝関節症	脛骨骨切り術・大腿骨骨切り術	5
	小計	129
脊椎手術		
頸椎手術（頸椎症性脊髄症、頸椎椎間板ヘルニア、頸髄損傷など）	椎弓形成術	3
腰部脊柱管狭窄症	椎弓切除術	2
腰部脊柱管狭窄症	脊椎固定術	6
腰椎椎間板ヘルニア	椎間板切除術	7
椎体骨折・偽関節	脊椎固定術	2
	小計	20
その他		
骨腫瘍	切除術	1
軟部腫瘍、ガングリオン、滑液包	摘出術	1
ばね指、ドゥケルバン病	腱鞘切開術	14
肘部管症候群	神経移行術	0
手根管症候群	手根管開放術	8
閉塞性動脈硬化症、糖尿病性壊疽など	切断術、断端形成術	2
骨折手術後など	骨内異物除去術	56
	小計	82
合 計		551

4. 脳神経外科

脳神経外科 部長 新田 雅之

疾病・術式・検査 (2022年度)

		単位：件
脳腫瘍	開頭摘出術	1
脳血管障害	破裂脳動脈瘤	1
	未破裂脳動脈瘤	21
	頸部内頸動脈ステント留置術	9
	脳動静脈奇形	0
	高血圧性脳内出血	0
	血栓回収術	13
外傷	急性硬膜外血腫	3
	急性硬膜下血腫	8
	慢性硬膜下血	38
水頭症	脳室シャント術	6
その他		66
合	計	166

5. 形成外科

形成外科 部長 平野 由美

疾病・術式・検査 (2022年度)

	単位：件
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm未満）	126
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm以上、4cm未満）	22
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径4cm以上）	4
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm未満）	74
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm以上、6cm未満）	13
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径6cm以上、12cm未満）	10
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径12cm以上）	6
皮膚、皮下、粘膜下血管腫摘出術（露出部）	1
皮膚、皮下、粘膜下血管腫摘出術（露出部以外）	1
皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	22
瘢痕拘縮形成手術（その他）	4
鼻骨骨折整復固定術	6
頬骨骨折観血的整復固定術	4
皮弁作成術・移動術・切断術・遷延皮弁術	13
全層植皮術	2
分層植皮術	12
眼瞼内反症手術（逆さまつげ）	2
眼瞼下垂症手術（眼瞼挙筋前転法）	3
眼瞼下垂症手術（その他のもの）	11
四肢・軀幹軟部腫瘍摘出術	15
ガングリオン摘出術（粘液嚢腫、ヒグローム含む）	13
耳介腫瘍摘出術	9
副耳切除術	2
陥入爪手術	28
入院局所陰圧閉鎖処置	150
動脈（皮）弁術、筋（皮）弁術	1
腱縫合術	2
その他	222
合 計	778

6. 泌尿器科

泌尿器科 医長 俵 聡

疾病・術式・検査 (2022年度)

単位：件

前立腺針生検	51
経尿道的前立腺切除術	10
接触式レーザー前立腺蒸散術	8
経尿道的前立腺吊上術	4
経尿道的膀胱腫瘍切除 (TUR-Bt)	22
経皮的膀胱瘻造設術	2
膀胱結石摘除術	2
経尿道的電気凝固止血術	4
経尿道的尿管ステント留置術	13
経尿道的尿路結石除去術	1
尿管鏡検査	2
逆行性腎盂造影	5
経皮的腎瘻造設術	11
精巣捻転手術	2
陰嚢水腫根治術	1
精巣外傷手術	1
包皮背面切開術	1
腹腔鏡下仙骨隆固定術(LSC)	30
尿失禁手術 (TVTスリング)	4
尿失禁手術 (TOTスリング)	3
膀胱水圧拡張術	7
その他	5
合 計	189

7. 小児科

小児科 部長 稲見 由紀子

2022年度、小児科では外来診療を中心に一般診療と専門診療（小児腎臓、小児アレルギー、小児循環器、小児心理、小児免疫、小児神経）の体制で連携を取りながら診療を行いました。

常勤医の増員により小児アレルギーの専門外来を新設し、食物負荷試験、舌下免疫療法を開始しました。

新型コロナウイルス感染症については、まず成人患者が主であった前年度と比してオミクロン株の流行により小児患者が急激に増加しました。発熱対応の外来受診数が8月の第6波、12月の第7波の時期は特に多くなりましたが、看護部、検査科、事務、薬局各部署からの協力を得て、通常診療を継続しつつ小児の発熱外来診療を並行して行うことができました。また新型コロナの高熱による熱性けいれんでの救急搬送が数多く見られました。小児の新型コロナワクチンの接種事業にも牛久市からの要請を受けて参加しました。

予防接種については、2022年4月より子宮頸がんワクチンの積極的勧奨が再開されましたが、未だ接種率は低く持続的な啓蒙が必要です。2023年度は9価の子宮頸がんワクチンが定期接種に導入されること、乳児の4種混合ワクチンが2か月から接種可能となることの変更点です。小児にとって適切な時期に確実に予防接種を行って重篤な疾患を予防していくことは、大変重要です。

食物アレルギー 経口負荷試験 26件

舌下免疫療法 新規導入 20例

*小児発熱外来 2022年4月から2023年3月

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
小児発熱外来受診者数	182	182	78	207	363	236	
新型コロナ陽性例数	55	39	10	104	176	56	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
小児発熱外来受診者数	155	189	304	210	179	73	2,358
新型コロナ陽性例数	34	76	184	84	16	0	834

*予防接種 2022年4月から2023年3月

(件)

アクトヒブR（インフルエンザ桿菌）	84
肺炎球菌	78
小児肺炎球菌	81
四種混合	97
B型肝炎	96
ロタウイルス	31
BCG	27
MR（麻疹、風疹）	149
ムンプス（流行性耳下腺炎：おたふく風邪）	142
水痘（水ぼうそう）	122
日本脳炎	270
二種混合	61
子宮頸がん	124
インフルエンザ	3,153
小児インフルエンザ	956
合 計	5,471

*乳児健診

55

8. 眼科

眼科 医長 井上 友輔

外来にて眼科疾患全般を診ています。現在常勤医2名体制となっております。手術については白内障手術をはじめ、網膜硝子体手術、緑内障手術、涙道手術、外眼部手術などを行っております。水曜日と金曜日の午前中は手術日ですが、水曜日は前任の矢部美香子医師が外来診療を行っております。よりスムーズな外来に努め、できるだけ多くの手術治療が行えるよう力を注いでいきたいと考えております。関連病院とも連携させていただき、地域医療の役に立てるよう出来るだけ精進していきたいと思っております。

疾病・術式・検査 (2022年度)

	単位：件
水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(その他のもの)	542
水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(縫着レンズを挿入するもの)	7
水晶体再建術(眼内レンズを挿入しない場合)	2
硝子体茎顕微鏡下離断術(網膜付着組織を含むもの)	17
硝子体茎顕微鏡下離断術(その他のもの)	4
硝子体切除術	3
硝子体置換術	1
網膜光凝固術(その他特殊なもの)	42
緑内障手術(濾過手術)	1
緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	2
涙管チューブ挿入術(涙道内視鏡を用いるもの)	18
涙嚢鼻腔吻合術	2
涙点プラグ挿入術	1
眼瞼下垂症手術(眼瞼挙筋前転法)	4
眼瞼内反症手術(皮膚切開法)	12
眼瞼内反症手術(眼瞼下制筋前転法)	2
斜視手術(後転法)	1
角膜・強膜異物除去術	1
前房、虹彩内異物除去術	1
翼状片手術(弁の移植を要するもの)	10
霰粒腫摘出術	1
結膜腫瘍摘出術	1
結膜嚢形成術(部分形成)	1
マイボーム腺梗塞摘出術	1
結膜結石除去術(少数のもの)	1
皮膚・皮下腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm未満)	2
眼球摘出術	1
眼球内容除去術	1
合 計	682

9. 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科 医長 中村 祐子

疾病・術式・検査 (2022年度)

単位：件

扁桃周囲膿瘍切開術	6
鼓膜切開術	45
鼻内異物摘出術	1
鼻中隔矯正術	3
鼻甲介切除術	4
咽頭異物摘出術	7
扁桃摘出術	0
副鼻腔手術	26
鼓室形成術	2
頸部手術	1
その他	143
合 計	238

10. 皮膚科

皮膚科 部長 永江 美香子
萩原 佐恵子

当院皮膚科では、常勤医師2名、非常勤医師1名で、午前中2診（2022年4月より土曜日は1診）で診療を行っています。皮膚科一般診療を中心として診療を行っており、帯状疱疹など比較的軽症患者の入院を受け入れています。

腋窩多汗症ボトックス、SADBE治療、エピペン処方が可能です。

アトピー性皮膚炎、乾癬などの生物学的製剤・JAK阻害薬の導入・維持投与が可能です。

当院リウマチ・膠原病内科や筑波大などと適宜連携を行っております。パッチテスト用試薬として、金属パッチテスト用試薬15種（水銀はなし）、パッチテストパネルSがございます。紫外線照射機器はございません。

自費診療として、爪切り、帯状疱疹生ワクチンおよびシングリックス、脱毛レーザー治療（Gentle Lase）、ピアッシング（耳垂のみ）、20%塩化アルミニウム液、ハイドロキノン軟膏、グラッシュビスタ（まつげ美容液）院内処方、男性型脱毛プロペシア、ザガーロ院外処方が可能です。

疾病・術式・検査（2022年度）

	単位：件
レーザー脱毛	22
皮膚生検	40
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm未満）	51
皮膚切開術（長径10cm未満）	112
合計	225

11. 救急医療科

部長兼救急・外傷センター長 佐藤 孝幸

集中治療部 部長 出口 善純

救急医療科 医長 矢口 慎也

(2022年7月～)

専攻医 桶屋 こむぎ

(2021年10月～7月)

専攻医 天神 久実

(2022年4月～9月)

専攻医 澁澤 安友未

(2022年9月～3月)

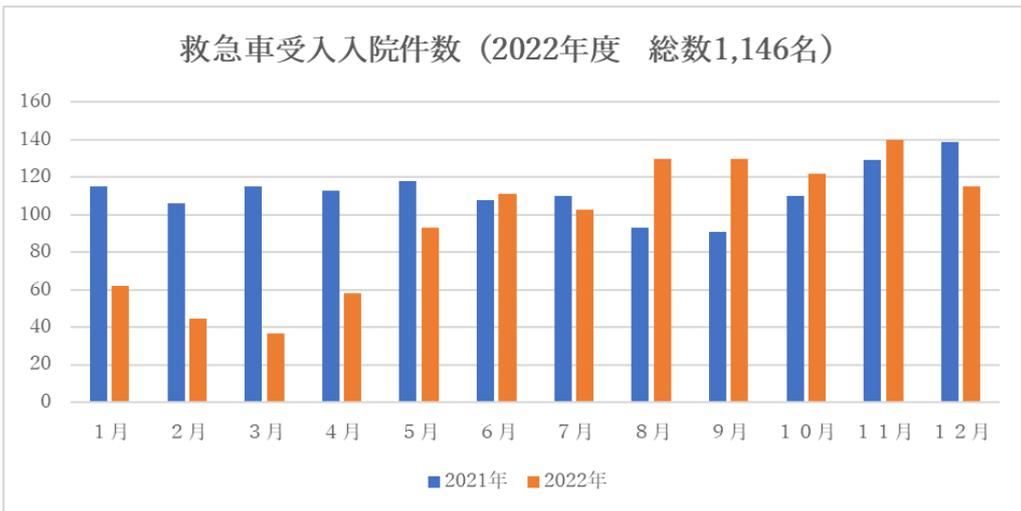
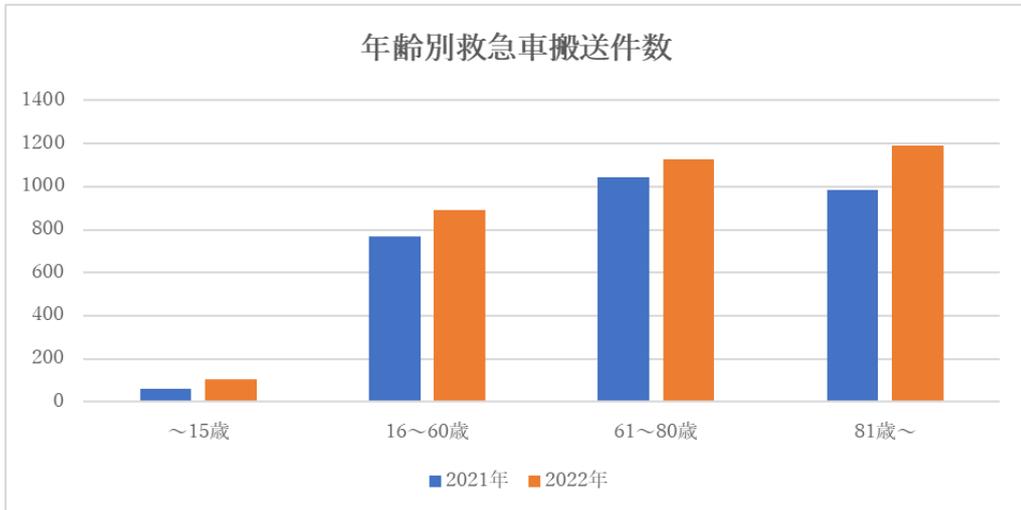
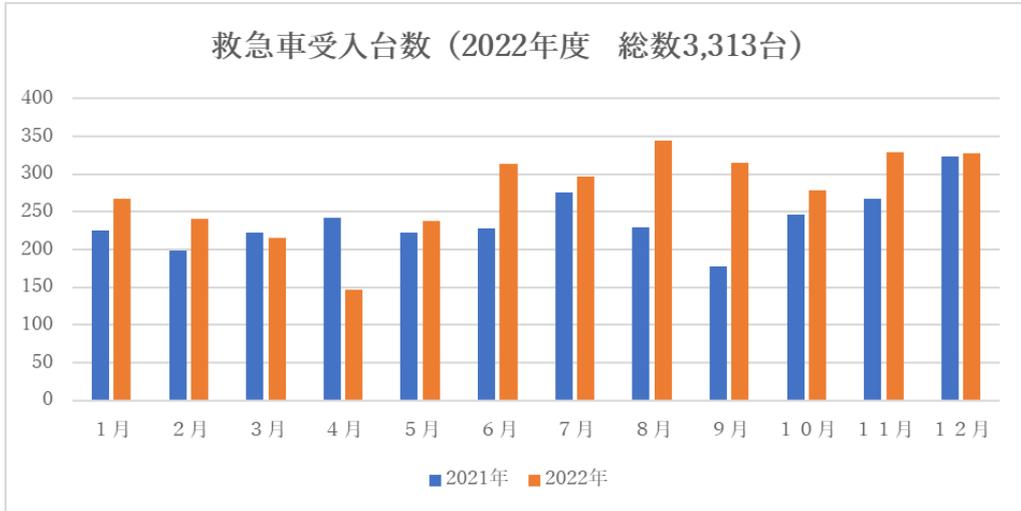
救急医療科は2019年5月に開設され、以降救急専門医を含む5名（常勤医2名）にて、地域救急医療の発展に尽力してまいりました。2021年4月より筑波大学より後期救急専攻医の派遣により、救急医療体制の拡充を図ることが出来、さらに、2022年7月からは矢口医師が赴任し、常勤医3名体制となり、益々充実したスタッフ体制となりました。開設された2019年度は3,304台と多くの救急搬送数に至りましたが、2020年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響から不要不急の地域救急要請患者数が減り、2021年度は計2,858台と2020年度と比較し、ほぼ横ばいではありました。しかしながら2022年度はコロナ感染症第7波、8波の影響で搬送数の増加が目立ち、3,313台と過去最高の搬送数に至っております。

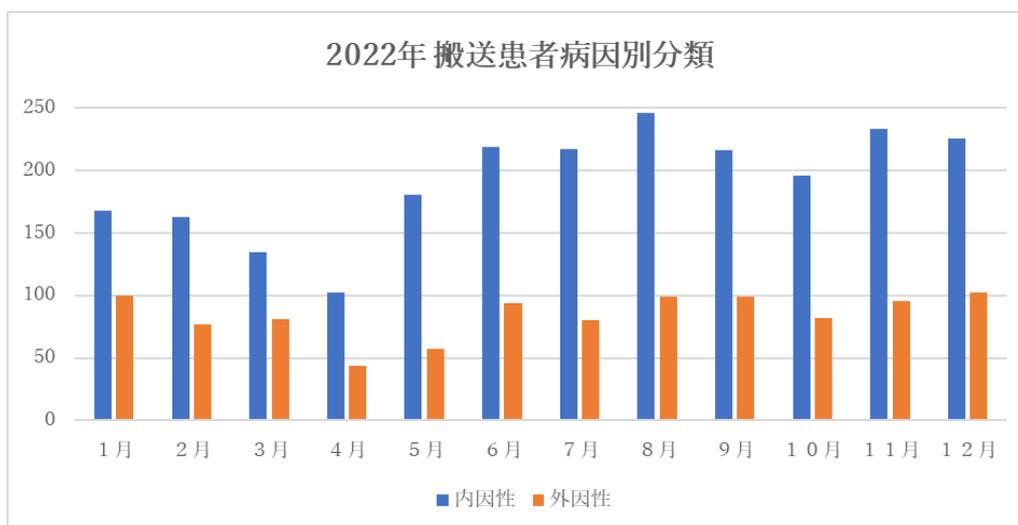
搬送患者の内訳としては、重症疾患搬送患者が依然として多く、搬送後、緊急入院となる患者は1,146人（34.6%）と約3割を占めております。年齢別には65歳以上の高齢者の搬送が大半を占め、80歳を越える超高齢者の搬送も目立っております。疾患別では、事故、外傷などの外因性疾患に比べ、引き続き内因性疾患が優位となっております。

2022年5月より稲敷広域消防本部との協力の下、週3日（月・火・水）、ドクターカー事業を始めとした病院前救急の運用を開始致しました。初年度の依頼件数は52件に留まっておりますが、徐々に認知度が高まり、依頼件数も上昇傾向にあります。ドクターカーの出動により、治療介入時間の短縮、救命率の向上が得られており、今後も益々充実した救急医療の提供が可能になると考えております。

当科での2022年度の手術件数は16件で、気胸手術、肋骨骨折に対する観血的手術をはじめ、腹部手術、緊急外傷手術に至るまで多岐にわたっております。

2020年9月には災害拠点病院の認可があり、日本DMAT指定病院として、地域災害医療の中心をなすべく益々活動の場を広げており、また、第2隊目のDMAT候補の育成などに尽力し、来るべき災害対策に備えております。また、教育面では、引き続き、稲敷地区メディカルコントロール協議会の教育研修施設となっております。救急地域災害の対策と教育指導、救急救命士/救急隊員への病院前救護体制の実践的指示、検証、教育、レベルアップ研修、off the job training（ICLSコース、JPTECコース、MCLSコース）の開催などを通じて地域救急医療体制の向上にも努め、実践しております。





疾病・術式・検査 (2022年度)

	単位：件
観血的整復固定術	2
気胸手術	6
気管切開術	4
汎発性腹膜炎手術	1
胆嚢摘出術	1
イレウス解除術	1
鼠径ヘルニア手術	1
合 計	16



救急センター前にて



ドクターカー前にて



2022年4月25日 ドクターカー運用開始式より



ドクターカー出動



2022年9月17日関東ブロックDMAT訓練より



2022年10月1日日本DMAT政府主催大規模地震時医療活動訓練より



ICLSプロバイダーコースより

1 2. 麻酔科

麻酔科 部長 古謝 宏樹

疾病・術式・検査 (2022年度)

全身麻酔症例		単位：件
外科		248
整形外科		518
口腔外科		136
脳神経外科		47
救急科		11
形成外科		95
耳鼻咽喉科		32
内分泌科		11
泌尿器科		157
眼科		6
合 計		1,261
脊髄クモ膜下麻酔症例		
整形外科		1
外科		3
合 計		4
総合計件数		1,265

13. 放射線科（IVR科）

放射線科部長 兼 読影センター長 山添 真治

放射線科は2023年4月から常勤医5名、木曜日及び土曜日に非常勤医1名ずつの体制となりました。主な業務はCTやMRI、単純X線等を読影させて頂いております。常勤医が増員したことで、より円滑に読影を行っていただけるものと考えております。

撮影の方法は基本的には決まったものを撮影致しますが、ご相談頂いた症例に関しましては必要に応じて追加撮影を行い、他科との連携を強めていけるよう努めてまいります。

また、読影センターの開設に伴い、他の医療機関の読影も積極的に行っていきたいと考えており、院外から依頼のある撮影及び読影において丁寧な対応を心掛け、画像診断を通して地域医療と連携を深めていければと考えております。

当院でも、IVR専門医が在籍したことにより画像下治療が可能となりました。

躯幹部・四肢の血管内治療やガイド下生検、ドレナージ等、他科との連携を図り院内においての治療の幅を増やしていきたいと思っております。

疾病・術式・検査（2022年度）

単位：件

診療業務

経皮的シャント造影(拡張術)	87
躯幹部、下肢血管造影(拡張、塞栓術)	18
合 計	105

読影業務

一般撮影	446
X線透視	31
CT	16,955
MRI	8,650
マンモグラフィー	2,616
合 計	28,698

1 4. 歯科口腔外科

歯科口腔外科 部長 河地 誉

歯科口腔外科では、常勤医 3名、非常勤医 1名、歯科衛生士 4名の体制で、診療を行っています。対象と院内では各委員会(NST、RSTなど)において、口腔の観点から患者健康増進に寄与するよう各職種との連携を行っています。また、消化器領域、呼吸器領域の悪性腫瘍の術前、人工関節置換、脳卒中の手術の術前、また化学療法、緩和ケアの方を対象として、誤嚥性肺炎などの合併症予防、経口摂取の早期開始また入院期間の短縮のため、周術期口腔機能管理を行っています。

院外においては、地域の基幹病院として、近隣の診療所等の後方支援を行う二次医療機関としての責務を果たすべく、円滑な医療連携を行っています。

疾病・術式・検査 (2022年度)

単位：件

[1] 全身麻酔における手術	計	117
抜歯術		68
顎骨腫瘍摘出術		33
口腔外消炎手術		1
唾石摘出術		4
顎顔面外傷関連手術(骨折、異物除去など)		8
前癌病変手術		2
顎変形症手術		1
[2] 短期入院症例	計	74
抜歯術		52
その他		22
[3] 周術期口腔機能管理	計	144
外科、整形外科、内科からの依頼など		

15. 内視鏡科

疾病・術式・検査 (2022年度)

単位：件

内視鏡	上部消化管（人間ドックを含む）	3,163
内視鏡	下部消化管（人間ドックを含む）	1,153
内視鏡	膵胆管造影（内視鏡的十二指腸乳頭切開術を含む）	50
	経皮的内視鏡的胃瘻造設術	26
合	計	4,392